

各回で取り上げる「古事記神話」の主要テーマ

- (第一回) 天地の初発の物語 天之御中主と高天原(その一)
私達の祖先は、天地のはじめをどう捉えたか
『古事記神話』学びのコツ
- (第二回) 天地の初発の物語 天之御中主と高天原(その二)
私達の祖先は、どのような世界を地上に実現しようとしたか
- (第三回) 伊邪那岐命と伊邪那美命の国生み物語(その一)
私達の祖先は、生命誕生・価値創造の仕組みをどう捉えたか
- (第四回) 伊邪那岐命と伊邪那美命の国生み物語(その二)
私達の祖先は、天地万物を「単なる物質」とは観なかった
- (第五回) 伊邪那岐命の黄泉がえりと禊ぎ祓いの物語(その一)
「黄泉戸喫」してしまった伊邪那美命の姿が示すこと
伊邪那岐命はどのようにして暗黒世界から脱出できたのか
- (第六回) 伊邪那岐命の黄泉がえりと禊ぎ祓いの物語(その二)
伊邪那岐命は、黄泉国の穢れをどのように祓い浄めたか
- (第七回) 三貴子の出現と天照大御神のおはたらき
天之御中主(靈性本源)の靈統が天照大御神に具体化される
- (第八回) 古事記は何故編纂されなくてはならなかったか
聖徳太子から続く自主独立、中心帰一国家確立の願い
古事記編纂を企図された天武天皇の大御心
稗田阿礼と太安万侶
『古事記神話』の読み方 ― 日本語表記への悪戦苦闘を想う
- (第九回) 「天の岩戸隠れの物語」は何を語るか(その一)
うけひ(受霊)による(地上)人間の誕生
- (第十回) 「天の岩戸隠れの物語」は何を語るか(その二)
古事記神話は、難局克服の根本的な方法を教えてくれている
日本の精神文化の原形が物語られる重大な場面
- (第十一回) 八岐大蛇退治の物語
須佐之男命の八岐大蛇退治の物語
- (第十二回) 大國主命の世界
神意を承けた天孫が降臨する前の混乱した地上世界ありさま
- (第十三回) 大國主命による国譲りは何を物語っているか
「うけひはく統治」から「しらす統治」への奉還の重大なる意義
- (第十四回) 雄大なる天孫降臨の物語
天壤無窮の神勅と「寶鏡奉斎の神勅」が語っている真実
- (第十五回) 天孫降臨後の「日向三代」の物語
久遠に続く皇位が地上で具体的に顕現していくすがた
- (第十六回) 火遠理命(山幸彦)、綿津見神の宮に行く
古事記の中でもっとも美しい物語は何を語っているか
- (第十七回) 神倭伊波礼毘古命(初代・神武天皇)の御誕生と
「神武天皇天業恢弘の詔」
- (第十八回) 神倭伊波礼毘古命(初代・神武天皇)の東遷と
「神武天皇橿原奠都の詔」(神武建国の理想)
- (第十九回) 古事記神話の真髓が具体化されてきた国造り
古代大和國家の黎明
飛鳥時代に明らかになる日本の国柄
- (第二十回) 古事記神話が伝える日本の国柄は「天皇國日本」